

# KD Japan 50th Anniversary

## 50周年記念誌

2018年2月17日 第50回総会・記念式典

於：京都市 新・都ホテル



## 関西潜水連盟

KANSAI SPORTS DIVING FEDERATION JAPAN

# 目次

目次 .....	- 1 -
ご挨拶	才木 康彦 ..... - 2 -
関西潜水連盟 50 周年によせて	玉置 敏夫 様 ..... - 4 -
関西潜水連盟創立 50 周年を祝して	元廣 孝志 様 ..... - 5 -
関西潜水連盟 50 周年を迎えて	戸田 邦司 様 ..... - 6 -
関西潜水連盟 50 周年記念式典に向けて	瀬田 芳博 様 ..... - 7 -
関西潜水連盟 50 周年	山本 進 ..... - 8 -
関西潜水連盟 50 周年によせて	吉本 幸男 ..... - 10 -
関西潜水連盟 50 年の思い出	鈴木 勇 ..... - 11 -
半世紀を振り返って-潜水との付き合い	大西 丈朗 ..... - 12 -
関西潜水連盟と私 —半世紀を振り返って—	須佐美 宗 ..... - 13 -
私とKD Japan	安村 晃伸 ..... - 14 -
関西潜水連盟 創立 50 周年をむかえて	荒井 康志 ..... - 15 -
～記念講演演者紹介～ .....	- 16 -

関西潜水連盟 50 年のあゆみ

関西潜水連盟加盟クラブ一覧

最後に

## ご挨拶

～関西潜水連盟創立 50 周年を迎えて～

関西潜水連盟  
会長 才木 康彦



本日、ご来賓各位のご臨席のもと連盟会員の皆様とともに、関西潜水連盟創立 50 周年を記念する総会を開催することが出来、誠に喜ばしい次第であります。ここに一言ご挨拶を申し上げます。

1957 年（昭和 32 年）、わが国初めてのスクーバを主とした職業潜水団体が関東に誕生しました。1961 年（昭和 36 年）には関西地区にも事務局が開設され、これが関西潜水連盟の前身となり、スクーバによる職業ダイバーの育成や安全潜水の普及を目的に活動を続ける一方、ダイバーを潜水障害から保護するために制定された高気圧障害

防止規則に基づく潜水土、救急再圧員の育成にも参加協力してまいりました。

1968 年（昭和 43 年）に指導員養成、ダイバーの育成や資質向上、安全潜水への対応と普及、ダイバーの相互扶助を目的として、関西を中心としたダイバーが集まり『関西潜水連盟』が設立され現在に至っています。関西潜水連盟は設立当初からクラブ制・会員制を基本とし、自助・共助の精神と相互扶助のルールに則り、安全潜水に対する啓蒙、レジャースポーツ潜水への取り組み、水辺や水中の自然観察などを通じ、会員相互の親睦・潜水技術の向上を求め、安全で楽しい潜水活動を今日まで続けております。その活動は、主に関西が中心ではありますが所属会員は全国各地におよび、日本海の舞鶴・若狭海域、九州博多・玄界灘や瀬戸内海をはじめ紀伊半島や四国海域、そして世界でも有数のスキューバダイビングポイントを有する沖縄地区で、ダイビングサービスの提供、ダイビング講習の実施等、各地域の特色を踏まえた活動を行っています。これらの活動継続には、諸先輩方の努力はもちろんの事、全国海上保安本部、日本赤十字社、(一財)日本海洋レジャー安全・振興協会 (DAN JAPAN)、(一財)社会スポーツセンターをはじめ、各指導教育団体の皆様から戴きましたご支援、ご指導の賜物と心より御礼を申し上げます。

1985 年（昭和 60 年）CMAS 世界水中連盟に加盟し、翌年の 1986 年（昭和 61 年）新生関西潜水連盟として英名 KANSAI SPORTS DIVING FEDERATION JAPAN（略号 KD Japan）と名付け、2007 年には CMAS 日本協議会発足に参加し、独立した CMAS カード発行団体として日本における CMAS の普及と発展に努力しています。

連盟は組織の確立を目的として、創成期に作成された規約やダイビングマニュアル等を時代の変遷に照らし合わせるため、1987 年第一次改訂作業に着手、続いて 1999 年に会員の執筆による KD ダイビングマニュアルを創刊することが出来ました。この度は、創立 50 周年記念関連事業として指導員認定基準

の改定、KD ダイビングマニュアルの全面改訂や補助教材の整理拡充を図り、組織の根幹を成す事業を行いました。この間、数年にわたり連盟の集大成といえるこの事業に携われました担当委員会委員長はじめ指導員、関係各位の皆様のご尽力に謹んで敬意を表します。

連盟事業の特徴として、創立当初より水中スポーツ大会やオリエンテーリング競技へ積極的に参加し、1975年（昭和50年）開催されました沖縄国際海洋博覧会（EXPO '75）の海洋レースでは我々の先輩たちが優秀な成績をおさめました。これらのレジャースポーツ潜水等への取り組みは、潜水基礎スキル向上を目的とし、会員相互の親睦を深める意味で、現在も継続しています。また潜水関連の学会やイベントへの参加、研究会や講習会の開催を通じて、潜水技術・安全潜水への意識や知識の向上ならびに研鑽に努めています。

連盟は1980年代後半頃より聴覚障害者へのスキューバダイビング指導に携わり、1998年「聴覚障害者のためのスキューバダイビングマニュアル」を創刊しました。この事業は故村上名誉会長を中心とし、10年以上にわたり会員が取り組んできた成果の集大成とし、各方面から高い関心をいただきました。その時の中心メンバーは現在も聴覚障害者ダイビングチームを引率し、聴覚障害者へのスキューバダイビング普及に寄与しています。

1995年1月の阪神淡路大震災では本部事務局所在地である神戸が甚大な被害を受け、人的被害は軽微でしたが多くの会員が被災しました。その折に全国のダイビング関係の皆様から戴きました温かいお言葉やご支援は、今日においても忘れることはなく、その後の多くの震災や防災に対する取り組み、創立以来続けてきました海辺への自然環境保全活動等は連盟ボランティア活動への新たな礎となっています。そして、2017年5月に兵庫支部が長期にわたる奉仕活動等に対して「厚生労働大臣特別賞」を、また7月には京都支部が海洋環境保全に対する取り組みを評価され「国土交通大臣表彰」を授与された事は、我々の理念である「自助・共助の精神と相互扶助ルール」と「自然環境保全への取り組み」が広く認められ、誠に喜ばしいことと存じます。

本日、連盟創立50周年という大きな節目の時を迎え、多くの皆様とともに祝うことが出来ました。お忙しい中ご臨席を賜りましたご来賓の方々、記念講演をしていただきました水中写真家鍵井靖章様、関西潜水連盟創立50周年記念誌発刊に際しお忙しい中ご寄稿いただきました皆様方、そして今日まで色々とご協力をいただきました関係各位の皆様方、指導員ならびに会員皆様やご家族におかれましては、ここに深く感謝いたしますとともに、これからも末永く関西潜水連盟・KD Japanを何卒よろしく願いいたします。

今後とも関西潜水連盟は、諸先輩方の経験や教えを基本に、創立当初からの理念と実績を継承し、努力を重ね、新たな組織の発展を目指して活動していく所存です。

本日ご列席を賜りました皆様方のご健康とご活躍をお祈りし、私の挨拶といたします。

ありがとうございました。

## 関西潜水連盟 50 周年によせて

大阪歯科大学名誉客員教授  
全日本潜水連盟名誉会長  
玉置 敏夫



月日の立つのは早いもので、関西潜水連盟も今年で設立 50 周年を迎えることになりました。もうそんなになったのかと感無量の思いにふけると同時に考えてみると、私も満 88 才になったのだと、50 年昔のことになると記憶も定かでない事が多くなりますが、当時関西では毎年私がやっていた「西日本水中スポーツ連盟」と京都の大野敏一氏が中心になってやっていた関東の組織である「潜水科学協会」の二つのメンバーが殆ど同じメンバーで集まっていました。同じメンバーでやっているのであるならば一つの協会にしようという事になり 1968 年出来たのが「関西潜水連盟」です。最初の会長には最年長だった神戸の村上忠一氏がなられ、副会長には私になりました。

行事として毎年 2 回の水中スポーツ大会を続けていました。一つはプールで、マスク・フィン・シュノーケル・スキューバを用いての競技が中心で、それが現在も日本スポーツダイビング協会に引き継がれて毎年行われています。もう一つの大会は海での競技、スピアフィッシング大会(魚つき)でこれに参加する人数はプールで行う大会よりもずっと大人数でした。理由は関西のみならず中部・関東・四国・九州と日本国中から選手が集まって来たからです。これが発展的に 2 年に一度行われる世界スピアフィッシング大会に出場することになりオーストラリア・イタリア・スペイン・トルコ・ペルー・クロアチア・タヒチで行われた大会に出場し、その規模は年々大きくなりました。しかし生きもの「魚」をゲームの対象としたため、競技として認められなくなり、今では全く行われなくなりました。益々盛んになったのは、水中写真ですがまだまだ水中での活動には多くの事がある様に思われます。

水中仲間を多く集め、ダイビング業界を発展させていく様に皆で頑張りましょう。

## 関西潜水連盟創立50周年を祝して

一般財団法人 尾道海技学院  
更新・関連事業部 理事  
MTES Diving Division  
運営委員長 元廣 孝志



関西潜水連盟創立50周年おめでとうございます。

「継続は力なり。」という言葉一つで表すことはできませんが、日本のスポーツ・ダイビングの歴史を、関西潜水連盟は共に歩んでこられた事に敬意を表します。

故村上忠一名誉会長を始めとする1957年当時、ダイビング指導の先駆者の皆様が、日本における潜水指導の下地を造られ、紆余曲折があったと思いますが、1969年に関西潜水連盟が誕生し、日本の潜水指導団体の枠組みが構築されました。

創世記の皆様を「新たなものを求める冒険者」とすれば、ダイビングをスポーツとして健全に発展させる役割を担う私達は「伝道者」として、創設者の想いを継承しつつ、時代のニーズに答えながら更に磨きをかける責任を負っています。

正に関西潜水連盟は、第一世代の故村上忠一名誉会長の想いを第二世代の才木康彦会長が受け継がれ、現在の役員の方々と想いを一つにし、アマチュアダイバーからプロダイバーで構成する CLUB 組織で運営を継続されています。

尾道海技学院MTESは、関西潜水連盟誕生から17年後の1986年に産声を上げ、故村上名誉会長にはMTESがCMAS教育システム導入に当たり、FEJAS（当時のCMASの日本代表組織）への加盟にご尽力を賜りました。

尾道海技学院付設の日本海洋技術専門学校の学生潜水指導においても、外部講師としてダイバーレスキューのノウハウを指導いただき、ろうあの方々へのダイビング指導など、新たなダイビングの可能性をたくさん教えていただきました。

尾道海技学院MTESも創設時の柱、故三宅玄造副会長の想いを継承し、第二世代の私も責任を全うすべく、スタッフ一同想いを一つに精進して参りたいと思います。

尾道海技学院MTESは、関西潜水連盟様の基本理念「親睦と融和と奉仕の志」を、指導員とダイバーの立場の違いはあれど、共に求める資質であると認識しています。

誠に勝手ながら、CMAS教育の普及ならびに安全潜水の普及において、潜水指導団体の大先輩の理念を参照しつつ、CMAS日本協議会構成メンバーの同胞として、健全なスポーツ・ダイビングの普及に共に歩んで参りたいと思います。

関西潜水連盟の皆様の、益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

## 関西潜水連盟 50周年を迎えて

一般財団法人 日本海洋レジャー安全・振興協会  
会長 戸田 邦司



関西潜水連盟が創立50周年を迎えられたことに謹んでお慶び申し上げます。

近年、我が国の海洋レジャーを取り巻く環境は変化を続けております。  
特にレジャーダイビングにあつては、装備の向上により、深く・長く潜水

することが可能となりましたが、その反面、従来にも増して安全潜水に対する知識と技能の向上が求められるようになりました。

しかし、ダイビングの安全・安心に必要な知識や技能が備わっていないために、痛ましい事故が発生している状況は変わっておりません。

貴連盟におかれましては、最長の指導実績を誇る潜水指導団体として、50年という長きにわたり、安全潜水に大きく寄与する活動をされていらっしゃいます。バディ潜水の遵守、ベテランダイバーによる初心者へのきめ細かな指導など、クラブ会員制組織ならではの安全潜水に関する活動に精励され、ダイビング事故の防止に努められているとともに海底清掃活動にも注力されていることに敬意を表します。

当協会も、レジャースクーバダイビングの安全性向上を目的として「DAN JAPAN」を運営しておりますが、平成4年1月のスタートですから、貴協会の歴史には遠く及びません。

それでも、DAN JAPANは、「divers helping divers」として会員の共助により成り立っている組織ですので、全国の会員のニーズに応えるため、ダイビング後のホットラインサービスやダイビング前の医療相談などの医療援助サービス、「Alert Diver Monthly」などによる安全情報提供サービス、レジャーダイビング保険などの保険の提供及びDAN酸素供給法講習などを行っております。

また、共通する「DAN」という名称で世界に5つの団体があり、減圧障害が発生した場合の相互協力、安全情報の共有、研究分野での協力、およびトレーニングの開発等の分野において国際的な連携にも努めております。

貴連盟には、長年、DAN運営委員会の委員として参画していただきDAN JAPAN発展のために大所高所より貴重なご意見を賜り、深く感謝申し上げます。

当協会は、今後も、海上保安庁や潜水指導団体等の関係組織からの協力をいただき、DAN JAPAN事業を継続的に運営し、レジャーダイビングの安全向上に貢献してまいりたいと考えております。貴連盟におかれましても、これまでの50年の長きに亘る安全潜水の歴史を、次の50年、100年へと繋ぎ、安全な潜水が実現できますよう、益々のご発展と会員皆様のご健勝を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。

## 関西潜水連盟 50 周年記念式典に向けて



一般財団法人 社会スポーツセンター  
理事・事務局長 瀬田 芳博

関西潜水連盟 50 周年記念式典に向けて

関西潜水連盟 50 周年おめでとうございます。

日本の潜水活動発展にご尽力され、早いもので 50 年の半世紀を経過しました。

関西潜水連盟はダイビング活動の普及はもとより、関西を中心に海の清掃活動に力を入れ、自然を大切に活動され、社会貢献活動を重視されている歴史のある潜水指導団体です。

日本のダイビングの歴史は、1957 年（60 年前）東京水産大学佐々木元学長が日本ダイビング協会を設立され、第 1 回スクーバダイビングの講習がスタートしました。

人間が息をこらえて潜水する「素潜り」は、日本も古代より行われており、その技術は「海女」に受け継がれ、現在に至っています。

歴史的には「魏志倭人伝」に海女によるサンゴや魚類の採取が紹介されています。

その後、近代まで素潜りの時代が続き、1857 年初めてヘルメット潜水器（潜水ベル）が導入され、明治 5 年には早くも日本海軍（工作局）において製造が始まったようです。

民間においても明治 5 年に、増田万吉氏がオランダから 10 台のイギリス製ヘルメット潜水器を輸入して国内製造が始まり、今日に至っています。

潜水器材もコンピュータ導入等が進み、安全な器材も増えていますが、関西潜水連盟でも今後安全第一の活動を推進され、楽しいダイビングの普及により、さらなる会員増を目指して頂ければ幸いです。

私の個人的な KD ジャパンとの思い出は、村上先生をはじめ多くの指導員の方々がとても教育熱心で、日本体育協会の公認指導員資格を取得いただいたことが思い出されます。

最後に、安全普及をさらに強化いただきたく、酸素ファーストエイドの普及にもご支援頂ければ幸いです。

関西潜水連盟の益々のご活躍を祈念し、50 周年のお祝いの言葉といたします。



## 関西潜水連盟 50周年

関西潜水連盟  
名誉顧問 山本 進



関西潜水連盟 50周年おめでとうございます。

一昔前までは人生50年と言われていたものですが、青春時代の思いをそのままに、地の果てまでも行ける場所は潜ってみよう!! とこの50年間、世界50数か国、潜れる海、湖、池などに潜ってきて、85才の現在も毎年様々な場所でチャレンジを続けています。

今まで世界各地でのレジャーやアドベンチャーダイビングのほか、潜水作業、釣り人が波にさらわれた、子供が池の近くで見えなくなった、崖の上から人が飛び降りた、などで警察や消防関係からの依頼で捜索なども行ってきました。

その頃は警察や消防などでも潜水での捜索をする隊員は少なく、大阪以外の他府県など遠方からも依頼がきました。

中でも印象に残っているのは、ある朝大阪市内の警察から電話がかかって来て、「マリンの山本さんですか？ちょっと他に言えないことをお願いがあるのですが。」

「実は拳銃強盗を捕まえたんですが、本人は拳銃を持っていなくて、取り調べでやっと池に投げ捨ててしまった。と言うのです。池に潜って探してもらえませんか？」

私はすぐに「わかりました。まず現地を見て人数と器材の準備をします」と答え、早速警察署へ。担当の警察官と現場の池に下見に行き話を聞くと「この場所からあちらの方向に投げ捨てたらしい」と言われた。池は濁っていたものの竹の棒で底の様子を見ると、それほどドロが溜まっているようには思えなかったので「明日朝、器材を用意して2名で行きます」と返答。さあ、誰を連れて行こうか、捜索と言っても池の中で拳銃一丁見つけるのは大変だと思いながらも翌朝一番潜水経験の多い、濁った水中でも行動の出来るダイバーを連れて現場へ。警察官が2名、当の強盗犯を連れて合流。

「ごくろうさんです。こいつです」 犯人に向かい大阪弁で「どこからどっちに向かってほったんや？」

「ここに立ってあの方向にほりました」「本当やな？ウソ言ったらあかんぞ！」「ハイ。本当です」「どれ位向こうや？」「あれ重いから5～6mです」

我々はその会話を聞きながら器材をセッティングして、犯人の言った場所の足元に30cm位の穴を掘り、竹の棒を立て、黄色い長さ23mの水上スキー用ロープを結び、振子状捜索

法でやってみることにした。視界は20cm位しかないのでロープの巻き具合を約20cmにして、片手で1巻き伸ばして、片手で底のヘドロの中を探りながら左右に5m位移動しながら2回捜索するが見つからない。このままでは我々の面子が立たないので、一度岸まで戻り警察官に、「拳銃と同じくらいの重さで似た形の石を探してほしい」とお願いし、一緒に探した。拳銃に似た三角形の石を新聞紙とビニールで巻いて2個作り、強盗犯にまず1個を投げさせた。もちろん我々は池に背を向けて投げた方向は見えていない。その石を先程と同じ振り状捜索法で発見し持って上がった。念のため2個目も同じ方法で捜索、発見したものの拳銃は見つからず、強盗犯が虚実の説明をした疑いがあるということで警察署に連れて帰り再度取り調べをすることになった。

警察官からは「すごいものですね。他にもそんな捜索をしているんですか?」「まあ。色々な依頼があって、この間は日本海で船から船外機が外れて海底に落としたものを探して引き上げました。私は長年鉄工所をやっていたので水没していたものをその場で分解して修理しましたよ。」「へえー！ 私は海が好きで船も4～5台乗り換えてきたので色々と教えてください」こんな今では考えられないような出来事や、他のダイバーの方々が経験していないような体験も数えきれない位してきました。

そのような経験などから、より安全で安心して潜れるダイバーを育てたいとの思いで、ダイビング専用プール、海洋訓練場を作り、一般の方を始めとして、消防関係、警察関係、テレビ局、新聞社などの方々にもダイビングを教えてきました。これからも私の意思を受け継ぐ後継者達が、安全に楽しむ事が出来るダイバーを育てていってくれることと思います。

KD JAPAN の今後の発展と皆様の安全潜水を心から願っております。

## 関西潜水連盟 50周年によせて

関西潜水連盟  
名誉顧問・京都支部長 吉本 幸男



関西潜水連盟設立 50 周年誠にありがとうございます。

昭和 36 年に旧潜水科学協会関西支部が京都の大野会長のご尽力により設立され、昭和 44 年大野会長、村上会長のご尽力により関西潜水連盟が設立されました。

大野関西潜水連盟設立委員長、村上会長などが中心になって設立された関西潜水連盟は、村上初代会長、玉置副会長、才木会長のご尽力を得て、本年記念すべき 50 周年を迎える運びとなりました。

設立後、全日本潜水連盟に所属し、関西潜水連盟として中心的な役割を果たし、潜水会発展のために尽力されてきたことは自他共に認めるところであります。

また、この間、Cカード団体としても非営利目的事業のKDJapan Cカードとして、今日に至るまで数多くのダイバーに対して潜水に関する教育指導を行なってまいりました。Cカード団体としては、唯一、Cカード発行以外にも潜水スポーツの普及と健全な発展のために様々な事業を行なってまいりました。

関西潜水連盟は、営利を目的としない会員の合議制で運営をしてまいりましたので、財政面、組織面などについても民主的に組織運営がなされており、運営費用も会員のボランティアで成り立っているため、資金繰り、活動などにも支障のない運営が続いております。

しかしながら、関西潜水連盟を組織する会員の高齢化は案じられるところであります。ダイビングサービスにおいて、高齢者が現役でダイビングを楽しむ事は大変良いことですが、若い世代への継承、後継者育成に対する実態が全く見えてこないのも現状です。関西潜水連盟を活性化するためには若いパワーが必要であり、1日も早く次世代が次の 50 年を迎えることができるよう（ロートルダイバー）から早く若者に権限委譲することが大切です。

次世代の後継者を早く育てられるよう、関西潜水連盟の中で場を作ることが重要であると考えております。

最後になりますが、改めて、めでたく 50 周年を迎えられたことについて心よりお祝いを申し上げます。

## 関西潜水連盟 50 年の思い出



アクアリング日赤特殊奉仕団  
顧問 鈴木 勇

創立 50 周年記念おめでとうございます。

さて、創立当時の思い出を振り返れば走馬灯のように、いろいろなことが思い出されます。当時、故村上忠一会長との出会いは、日本赤十字社兵庫県支部の救急法講習会（昭和 42 年 9 月）でした。

その後、関西潜水連盟加入者の有志（元潜水科学協会関西支部）等でアクアリング赤十字奉仕団を結成（昭和 44 年 10 月）。当時関西では数えるほどのクラブしかなかった頃、まず社会的地位を高めるのが先決と考え、好感の持たれる奉仕活動をしようと考えました。

50 年の歴史の中でいろいろなイベントをやりましたが、私の心に残るイベントを 2 つ 3 つ挙げたいと思います。

1970 年（昭和 45 年）須磨海岸清掃奉仕活動を神戸市と神戸新聞社に協力をお願いし、海中清掃（アクアリング赤十字奉仕団）と海岸清掃（ガールスカウト兵庫県）を実施。毎年 6 月第 4 日曜日実施を全国へ PR しました。

また、同じ年の夏季より「初心者のための水泳教室」を 15 年間に渡り開催（事故は無し）したところ、初めは若い娘さんが多く参加されていましたが、その後小中学校にプールが出来るようになってからは、小中学生が増えてきました。そして水泳教室の中に赤十字の特色を出すため、心肺蘇生法も取り入れながら実施しました。

1975 年（昭和 50 年）には沖縄海洋博覧会記念沖縄海洋博レースイベントに参加し、多くのダイバーと交流ができ楽しく素晴らしい時間を過ごすことが出来たことは良い思い出となりました。

最後に関西潜水連盟の益々の発展と本日参加者全員のご健康と御多幸を心からお祈り申し上げます。

## 半世紀を振り返って-潜水との付き合い

関西潜水連盟  
舞鶴支部長 大西 丈朗



関西潜水連盟創始50周年おめでとうございます。

50年と言えば、半世紀です。社会は変わり、人の世も世代も変わる年月です。この歴史は先の村上会長をはじめ才木会長、諸先輩方の熱意とご努力のたまものと感服するところがあります。

50年前というと、ちょうど私がダイビングに関わった頃で、まだ国産の機材も無く、イタリア製のレギュレーター等を自動車用品輸入商社が扱い、全国のガソリンスタンドで販売する仕事につきましたが、いくら高度成長時期でも、まだ海のレジャー関連は売れるわけはありません。当初私もダイビングサービスとショップを展開しましたが、やむなく潜水工事業に転向せざるをえませんでした。時はバブル期真っ只中の平成元年に冠島専門のダイビングサービスを始め、関西潜水連盟にも入会して現在に至っています。バブルも終わり社会構造の関係で高齢化時代。社会現象でもある若者のレジャー、休暇の過ごし方が変わり徐々にダイビング人数も減少。ダイビング業界は冬の時代が続いてきました。関西潜水連盟も高齢化と会員の減少で活動も縮小せざるをえない現在ですが、若い世代に引き継ぎ、連盟の独特のシステムと安全潜水を継続しなければなりません。

歳を重ね、体調のこともあり、いつまでお世話になれるか解りませんが、微力ながら関わらせていただく所存です。さらなる継続と発展を信じ、関係者の皆様のご努力に敬意を表してお祝いの言葉といたします

## 関西潜水連盟と私 -半世紀を振り返って-

関西潜水連盟

兵庫支部長 須佐美 宗



関西潜水連盟・KD Japan 創立 50 周年おめでとうございます。

ダイビングを始めた動機はと訊ねられ、映画「沈黙の世界」を見て感動したと言えは聞こえは良いのですが、実際のところ新鮮な魚介類がたらふく食べられると言う不純な動機で始めた私のダイビング歴も連盟と同じく今年で 50 年になります。

私がここまで長くダイビングを続けられたのも、連盟に所属し良き指導者、良き仲間にも恵まれたからと、心より感謝しています。

前任の八木康行さんを引継ぎ、支部長をやらせて頂いていますが連盟 50 周年の節目に当たり、諸先輩方が築いてきた関西潜水連盟と言う組織を絶やす事の無いよう努力したいと思っています。

50 年を振り返り、兵庫支部として活動参加して来た各大会催し等をご紹介します。

1969 年伊豆八丈島で開催されたスピアーフッシング世界大会（今では考えられませんが）

1975 年沖縄海洋博での水中スポーツ大会

伊豆海洋公園での支部対抗水中スポーツ全国大会（JUDF 主催）

福岡海の中道海浜公園での UWO 全国大会（この頃は UWN と呼ばれていました）

山梨県本栖湖でのクラブ対抗 UWO 全国大会（マリンダイビング誌主催）

神戸まつりパレード（日本赤十字アクアラング特殊奉仕団）として毎年参加

須磨海水浴場海開き前の海中清掃奉仕、各地アクアスロン、トライアスロン大会水泳時のサポート、年末の赤十字海外助け合い募金活動への参加等、ボランティア活動も積極的に取り組んで来ました。

ダイビング人口が減少する中、数年前には水中スポーツ大会が取り止めとなり

寂しい限りでしたが現在は年に一度の OWS, UWO 大会設営のお手伝いをし、

又参加もしています。

近年は学生の方が積極的に参加され盛況に成って来ています。

ダイビング初心者の方はスキルアップのため、又年配の方は昔を思い出しながらの体力維持？のため、参加されてはどうか。

特に UWO はタイムより完走すれば、入賞すること間違い無しです。

私も体力の続く限りお手伝いをさせていただきます。

会員の皆様の連盟行事への参加、ご協力宜しくお願い致します

## 私と KD Japan



### 関西潜水連盟 沖縄支部長 安村 晃伸

関西潜水連盟創立 50 周年、心からお慶び申し上げます。  
一口に 50 年と言いましても、非営利の団体をこれだけの期間に渡って継続するには、関係する皆様のご尽力や自己犠牲がなければあり得なかった話ですので、この歴史を作り上げて来られた関係者の皆様には殊の外、感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

振り返ってみますと私も、関西潜水連盟(以後 KD と記します)との出会いが大きくダイビング人生を変えて参りました。

子供のころから海に囲まれた沖縄で生まれ育ち、海、船、ダイビングにどっぷり漬かった毎日を過ごしていた私は、本島や伊江島のショップで修業時代を経て、今から 30 年程前にダイビングサービス・シーモンキーズを立ち上げ、ガイドとして働き始めました。ちょうどその頃、お客様の紹介で故村上名誉会長と舞鶴支部の大西様が伊江島に来て下さいました。駆け出しのガイドではありましたが、当時は若く、人一倍体力もあり、相当の経験を積んでいると自負しておりましたので、自信に満ち溢れておりました。今思い返すとお恥ずかしい話です。そんな私にお二人は熱心に安全性を高めるダイビング、作業ダイバーとレジャーダイバーの違い、ダイビングにおける自信過剰の恐ろしさ、またこれからのインストラクターのあり方を教えて下さいました。まさに「目から鱗」でした。

当時はダイビングコンピューターが一般には使用されておらず、シーズン中には 1 日に 30 メートルのダイビングを 4 本行い 5 本目は、スタッフ全員でロープに下がって減圧を行っていた時代でした。その頃は、高性能なダイビングコンピューターを使用してのダイビングが当たり前になるとは夢にも思いませんでした。また昔は都市型のダイビングサービスが多く、ツアーでのお客様さんが主流でしたが、今ではネットや SNS での予約が主流となりつつダイビングを取り巻く環境も大きく変わって参りました。今思うと、あの時の出会いが無ければ、時代に合わせてここまで乗り切ってきたか甚だ疑問です。

正直に申し上げます KD のクラブでの登録など、非営利団体ならではの独特の組織的な構造は当初全く理解できませんでしたが、魅力が分かりますと、沖縄の他のショップにも自信を持って KD をお勧めできるようになり、幾つかのショップやクラブをご紹介できたのは喜びでした。更に大西様も精力的に動いて下さり、沖縄でも多くのショップが KD に参加するようになりました。沖縄支部が 2005 年に発足し、今現在所属のクラブ数は 11 となっております。ITC も開かれ、多くのインストラクターを輩出できております。世界でも有数のダイビングスポットであるここ沖縄で、KD がこれからも地歩を固めて行けるよう、私も微力ながら尽力をいたす所存でございます。

## 関西潜水連盟 創立50周年をむかえて

関西潜水連盟  
理事長 荒井 康志



創立50周年おめでとうございます。このような記念すべき年に理事長の役職に携われとても光榮に思います。

私が関西潜水連盟の親睦会に初めて参加したのはスクーバダイビングを始めたばかりの二十数年前の事、前会長の村上 忠一氏に「楽しんでいるかい？」と声をかけられた事、気さくな人柄に親しみを感じたことを思い出されます。

それから何年か経ちスクーバダイビングの楽しさ 厳しさを満喫していたところ指導者になることとなり、関西潜水連盟のインストラクターとなりました。

潜水指導者として潜水の知識を深める努力の大切さ、それを伝える難しさを痛感しているところでございます。

皆様もお判りになると思いますが特別な環境下で行われるスクーバダイビングだからこそ感動は大きいものです。

初めて海の中へ入ったとき、耳抜きが出来ない、思うように器材の操作が出来ずバディやインストラクターにサポートしてもらうなど大切な思い出として残っているのではないのでしょうか。そしてダイバーになるとき手にしたマニュアルを熟読し、これから始まるダイビングライフに心躍らせたことでしょうか。今年度は指導マニュアルも新しくなり、設立当初に比べ内容もより充実し解りやすく変化しました。スクーバダイビングも毎年、わずかながら変化しています。57年前（1961年）に日本で潜水器材が初めて製造販売されたと聞いています。その頃はダイビングスクールや器材を販売するショップも少なかったようです。今では空気潜水以外にも酸素分圧を調整した潜水やデジタルカメラの普及 ファッション性のあるウェットスーツなど設立当初には考えられないほど器材もダイビングスタイルも変化をしています。現在スクーバダイビング人口は減少していて、その原因の一つとして挙げられるのが安全面です。毎年ダイビング中のトラブルが数件ありその件数も増加しつつあります。水中でのトラブル回避は基本を厳守することによって防げることもあるでしょう。また、安全対策の向上と推進は指導団体の義務でもあります。

その中でも 関西潜水連盟は潜水指導や安全講習に重点を置きスクーバダイビングの普及活動に邁進してまいりました。

理事長の役職に就き諸先輩の築かれた伝統を継承しながら時代の変化に伴う活動と普及に微力ながら尽力を重ねて参ります。

皆様におかれましては今後とも御支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



## ～記念講演演者紹介～

かぎ い やすあき  
鍵井 靖章氏



1971年、兵庫県生まれ。水中写真家。  
大学在学中に水中写真家・伊藤勝敏氏に師事する。  
1993年よりオーストラリア、伊豆、モルディブに拠点を移し、水中撮影に励む。  
1998年に帰国。フリーランスフォトグラファーとして独立。自然のリズムに寄り添い、生き物に出来るだけストレスを与えないような撮影スタイルを心がける。3.11以降は、岩手県の海を定期的に記録している。「wreath (リース)」（日経ナショナル ジオグラフィック社）、「海中散歩」「夢色の海」（共にPIE International）、「ダンゴウオ 海の底から見た震災と再生-」（新潮社）、「The Shark サメたちの海へ」（誠文堂新光社）など著書多数。「情熱大陸」

「未来シアター」「クレイジージャーニー」「視点・論点」などのメディア出演多数。2013年、2015年に「日経ナショナル ジオグラフィック写真賞」優秀賞を受賞。 公式WEBサイト <http://kagii.jp/>

## 写真集 ～unknown～ について



鮮烈な海の碧に、銀河のように煌めく魚たち群れ、咲き乱れるサンゴやイソバナの花畑、静寂のサンゴ礁など、どの写真も自然がつくる極限の美を感じさせてくれます。ページをめくるたび、「地球にこんな場所があったのか」と驚かされるでしょう。  
20年以上、世界各地の海の写真を発表してきた水中写真家、鍵井靖章が今回選んだテーマは、見たことのない「未知の海」。232ページ、写真193点の大ボリュームで魅せる水中の絶景を、五つの切り口で存分に味わえます。

巻末では、著者が特に思い入れのある7つの海を紹介。著者が、どんな海で、何を見たのか、どんなこと感じたのかを、同じように体験できます。

## 関西潜水連盟の歩み

年号/西暦	日付	場所	関西潜水連盟史	主な出来事	時事語録・流行語
昭和32年 1957				日本ダイビング協会設立 翌年「潜水科学協会」に改名	なんと申しましょうか デラックス 神武以来
昭和34年 1959				CMAS（世界水中活動連盟）設立	ながら族 ファニー・フェイス
昭和36年 1961				潜水科学協会関西支部発足	わかつちやいるけどやめられない 不快指数
昭和41年 1966				「潜水科学協会」は科学技術庁が主務官庁となり「社団法人海中開発技術協会」を設立、潜水科学協会発展的解消	びっくりしたなあーもう ボクアしあわせだなァー
昭和42年 1967			新「潜水科学協会」準備会発足（初期の関西潜水連盟）	旧潜水科学協会の役員によりレジャーダイバーの育成を目的に活動を話し合う	大きいことはいいことだ ハブニング
昭和43年 1968	2/11	京都	新「潜水科学協会」発足（京都国際会館にて関西のダイバー約140名参加、会長：大野敏一（京都）、副会長：増田芳治（大阪）、山名実（京都）選出）  日赤救急法普及会の結成	小笠原諸島、日本に復帰 イタイイタイ病・水俣病公害認定 メキシコオリンピック開幕  GNP世界第2位	昭和元禄 ズッコケる
昭和44年 1969	9月		「潜水科学協会」「西日本水中スポーツ連盟（会長玉置敏夫）合併し「関西潜水連盟」発足、会長：村上忠一、副会長：玉置敏夫  白浜町で連盟主催の準指導員検定が行われ、32名が受講	8/27ブルーオリンピック大会主催 日本水中技術振興会 伊豆八丈島 参加6ヶ国230名参加	エコノミックアニマル  Oh!モーレッツ ニヤロメ
昭和45年 1970			関西潜水連盟に指導員25名、準指導員47名、計72名が登録され近畿、中国・四国での潜水教育が本格的にスタート  アクアラング赤十字特殊奉仕団結成（参加者55名）	海の救助、捜索活動、クリーン作戦兵庫県防災訓練に参加  J・マイヨール 伊豆海洋公園にて76mの素潜り記録達成	芸術はバクハツだ
昭和47年 1972			全日本潜水連盟（JUDF）発足加盟  関東の日本潜水会、中部潜水連盟、関西潜水連盟、PADI潜水指導協会の4団体で全日本潜水連盟（JUDF）が設立される	日中国交正常化  沖縄返還  日本列島改造論 第11回 冬季オリンピック札幌大会開幕	瀬戸の花嫁  ゴッドファーザー 恍惚の人 ベルサイユのばら
昭和50年 1975		沖縄	沖縄国際海洋博覧会・海洋レース参加 準指導員認定講習会	ベトナム戦争終結 沖縄国際海洋博覧会 スエズ運河再開	世界同時不況 ソウル・ディスコ タワーリング・インフェルノ 第2次ベビーブーム 複合汚染
昭和52年 1977	3/6	大阪	関西潜水連盟 第1回総会開催  枚方市ヤングプラザ 125名参加	山下泰裕19才 史上最年少「柔道日本一」 気象衛星「ひまわり」打ち上げ成功 北海道「有珠山」爆発 王貞次「ホームラン756号」世界一	祟りじゃ〜っ  天は我々を見放した  普通の女の子に戻りたい
昭和54年 1979		和歌山 徳島 静岡	全日本UWN大会 救急再圧員研修（松山） 海洋フリッパーレース参加（伊豆） 大阪支部水中スポーツ大会実施 水中写真展（神戸サンチカギャラリ） 指導員・準指導員講習会実施	イラン革命 スリーマイル島原発事故 東京サミット ソ連アフガニスタンに軍事介入 共通1次学力試験（センター試験）が始まる NECがパソコン「PC-8001」を発売	インベーダーゲーム エガワる キャリア・ウーマン 省エネルギー ぶら下がり健康器 夕暮れ族

昭和55年 1980	3月		関西潜水連盟会報第1号発刊	モスクワオリンピック不参加 イラン・イラク戦争 「竹の子族」原宿歩行者天国で	竹の子族 とらばーゆ 漫オブーム ルービック・キューブ
昭和56年 1981		京都 須磨	関西潜水連盟 第5回総会開催 UWN春季大会 全日本海洋フリッパーレース  春季スポーツ大会（マキノ）	ポートピア81開催（神戸市） チャールス皇太子ダイアナ結婚 エジプトサダト大統領暗殺 100歳以上1000人突破	クリスタル族 なめネコ ハチの一刺し 窓ぎわのトットちゃん
		兵庫	UWNクラブ対抗全国大会決勝戦 神戸須磨にて開催		
		兵庫 兵庫	準指導員認定講習会（浜坂）・（須磨） 水中写真展（神戸そごう）		
昭和57年 1982		大阪  静岡 山梨	認定証基準制定 1スターダイバー（4級）～4スターダイバー（1級） 春季スポーツ大会（枚方市ヤングプラザ） 第6回総合（神戸） 海洋フリッパーレース（伊豆海洋公園） UWNクラブ対抗全国大会（決勝戦）（本栖湖）	フォークランド紛争勃発 羽田空港沖日航機墜落 ナショナル・トラスト 500円硬貨1億枚発行	逆噴射 森林浴 ネクラ ほとんどビョーキ ルンルン
昭和59年 1984				全日本潜水連盟分裂 植村直巳がマッキンリーで行方不明 グリコ森永事件	まるきん まるび くれない族 エリマキトカゲ
昭和60年 1985			CMASに加盟（世界水中連盟）	青函トンネル貫通 NTT・日本たばこ民営化 大鳴門橋が開通 日航ジャンボ機「御巣鷹山」に墜落	投げたらアカン カエルコール ロス疑惑 キツネ目の男
昭和61年 1986			全日本潜水連盟（JUDF）より脱退  新生・関西潜水連盟としてロゴを「KDJapan」と名づけ活動を継続する事に決定	フィリピン「アキノ政権」樹立 ソ連チェルノブイリ原発事故 土井たかこ社会党委員長に 伊豆三原山噴火 「チャレンジャー」が打ち上げに失敗	ファミコン 亭主元気で留守がいい おニヤ子 地揚げ・底地買い
昭和62年 1987			潜水安全協議会に加盟（警察庁・海上保安庁）  KDJapanインストラクターマニュアル作成。	ペレストロイカ JR発足（国鉄解散） ニューヨーク市場史上最大の下げ アサヒスーパードライブ大ヒット	マルサ 朝シャン サラダ記念日 ゴクミ
昭和63年 1988			第1回KDJapan ITCをフィリピン・アニラオで開催。 16名が参加 第20総会 大阪・東洋ホテルで開催。約150名が参加 KDJapanインストラクターマニュアル加筆・増刷 社会スポーツセンターに加盟（文部省） RDSに加盟（通産省）	上海修学旅行列車事故 ソウルオリンピック開幕 瀬戸大橋・児島～坂出ルート開通 地価暴落	トマト銀行 シーマ現象 しょうゆ顔・ソース顔 ドライ戦争
昭和64年 平成元年 1989			海中安全協議会に加盟（RDS・潜安協解散） 日本海洋レジャー安全振興会に加盟（運輸省） 11月 CMAS世界総会開催（名古屋）	昭和天皇崩御 消費税実施 中国「天安門事件」起こる ベルリンの壁崩壊	セクシャル・ハラスメント オバタリアン 24時間タカエマスカ オタク
平成3年 1991			聴覚障害者ダイビング活動NHK・TVで放映	湾岸戦争突入 きんさん・ぎんさん100才・100才 雲仙普賢岳大火砕流発生 ソ連消滅・ゴルバチョフ大統領辞任	地球にやさしい 僕は死にましょ～ん 若貴 損失補填
平成4年 1992			日本赤十字社より銀色有効賞授与	地球サミット開催（ディオジャネイロ） 日本新党設立 大阪・海遊館が開館	カード破産 冬彦さん 上申書 複合不況
平成5年 1993		京都	関西潜水連盟 25周年記念総会開催	北海道西南沖地震 イスラエル・PLO相互承認 新党ブーム細川政権誕生 ナタ・デ・ココデザート流行	Jリーグ・サポーター 規制緩和 コギャル お立ち台

平成7年 1995			阪神・淡路大震災で事務処理変更 震災のため年次総会中止 震災復興水中スポーツ大会開催 第1回全国室内潜水スポーツ大会参加	阪神・淡路大震災発生(1.17) 都営地下鉄「サリン事件」 野茂投手米ドジャースで初勝利 フランス・ムルロワ環礁で地下核実験	無党派 安全神話 インターネット ライフライン
平成8年 1996			平成7・8年度・年次総会 水中スポーツ大会・水中写真展・支部・委員会・クラブ 便り同時開催 第2回全国室内潜水スポーツ大会参加	アジア・ヨーロッパ首脳会議 薬害エイズ産・官・学暴露 ペルー日本大使館人質事件 タマゴッチブーム	メークドラマ 援助交際 ルーズソックス チョコベリグ アムラー
平成9年 1997		日本海 7月	日本海流出重油調査および回収ボランティア活動 水中スポーツ大会・水中写真展・支部・委員会・クラブ 便り本部主催同時開催 関西潜水連盟規約改定作業着手	ロシアのタンカー「ナホトカ号」 が日本海に沈没して重油が流出 消費税が3%から5%に引き上げ 香港がイギリスから中国に返還 イギリス元皇太子妃ダイアナがパ リのセヌトンネルで事故死 山一証券が3兆5000億円の負債を抱 え自主廃業を決定	失楽園 たまごっち もののけ姫 郵政3事業 パパラッチ
平成10年 1998	3/29	神戸	関西潜水連盟創立30周年記念総会開催 <small>(神戸市海洋博物館)</small> 記念講演：東京医科歯科大学 眞野 喜洋 教授 水中写真家 望月 昭伸 氏 参加人数303名 記念海洋クルーズ <small>(明石海峡)</small> 聴覚障害者におけるスキューバダイビング指導マニュアル完成	郵便番号が5桁から7桁に 明石海峡大橋が開通 貴乃花と若乃花、史上初の兄弟横 綱が誕生 アメリカのマイクロソフト社が 「Windows '98 日本語版」を発売 長野冬季五輪で日本は金5・銀1・ 銅4のメダルを獲得	ハマの大魔神 だっちゅーの 環境ホルモン 貸し洗り 凡人・軍人・変人 モラル・ハザード
平成11年 1999	4月 7/20 9/5 11/11	神戸	舞鶴支部発足 インターネット開設 KDダイビングマニュアル創刊 第30回水中スポーツ大会開催 国際高気圧障害医学会 (ICHM) サテライトシンポジウム「ナイトロックス イン 神 戸」併催	アメリカ・クリントン大統領のス キャンダル弾劾裁判で無罪判決 トルコ大地震・台湾中部大地震が 発生 改正住民基本台帳法が成立 マカオがポルトガルから中国に返 還 プロ野球のオリックス・イチロー 選手が元TBSアナウンサーと結婚	フツホン 学級崩壊 ミッチー・サッチー 西暦2000年問題 だんご3兄弟 iモード
平成12年 2000	2月 4/1 4/8		KDホームページ開設 新関西潜水連盟規約改正・関西潜水連盟規則制定施行 第一回KD本部理事会開催 <small>(神戸勤労会館特別室)</small>	森喜朗 首相内閣が始まる 雪印乳業集団食中毒事件 沖縄県名護市で主要国首脳会議 (サミット)・二千円札発行 シドニー五輪で高橋尚子選手が大 会新記録で金メダル 木村拓哉が歌手・工藤静香との結 婚を発表	おっはー IT革命 Qちゃん ジコチュー 「官」対「民」
平成13年 2001	10月 10/27	東京	KDオリジナルログブック作成 神戸市垂水沖：太閤岩海底調査 第4回「安全潜水を考える会」発表 ：村上名誉会長「聴覚障害者とスキューバダイビング」	アメリカでジョージ・ブッシュ大 統領が就任 ハワイ沖でアメリカ海軍原子力潜 水艦が実習船えひめ丸に衝突 大阪府にユニバーサル・スタジ オ・ジャパンがオープン アメリカ同時多発テロ事件(9.11 テロ事件) 東京ディズニーシーがオープン 皇太子妃・雅子さまが第1子をご出 産 小泉純一郎 首相内閣が始まる	米百俵 骨太の方針 狂牛病 改革の「痛み」 生物兵器 改革の「痛み」
平成14年 2002	1月 3/10 11月		指導認定基準改定作業着手 KD会員証シールを発行 KDインストラクタートレーナーセミナー開催 KDオリジナルカレンダー配布開始  (水中写真コンテスト優秀作品使用)	ユーロ圏12ヶ国で欧州単一通貨 「ユーロ」が流通開始 雪印食品が解散 住民基本台帳ネットワークが稼動 歌手・宇多田ヒカルが写真家・紀 里谷和明と結婚 島津製作所・田中耕一所員がノー ベル化学賞 インドネシア・バリ島のディスコ で爆発テロ	タマちゃん 内部告発 ベッカム様 ムネオハウス 拉致 Godzilla

平成15年 2003			KDトレーニングセンター制度創設 第26回CMAS世界大会（中国・海南島三亚）出席	朝青龍がモンゴル人として初めて横綱に昇進 スペースシャトル「コロンビア」が大気圏突入の途中で空中分解 宮崎駿監督「千と千尋の神隠し」がアカデミー賞を受賞 日本郵政公社が営業開始 東海道新幹線品川駅が開業 柔道・谷亮子選手がオリンピックブルーウェーブの谷佳知と結婚	毒まんじゅう マニフェスト 勝ちたいんや！ コメ泥棒 SARS
平成16年 2004			スノーケリングスクール・ディレクター登録 （社会スポーツセンター・日本スノーケリング協会）	自衛隊がイラクへ派遣 アメリカでの狂牛病発生影響で、吉野家が牛丼の販売を中止 東京都心で38日間連続真夏日の最長記録 イチロー選手がシーズン最多安打記録を84年ぶりに更新 新潟県中越で震度6強の地震・上越新幹線で開業初の脱線事故 スマトラ島沖のM9.0の地震が発生、津波で約29万人が死亡	韓流 気合だー！ セレブ 電車男 鳥インフルエンザ マツケンサンバ
平成17年 2005			沖縄支部発足 KDホームページリニューアル CMAS non vote メンバーに登録（CMASと直接契約） CMAS日本協議会発足と加盟	愛知県で愛・地球博覧会が開幕 JR福知山線脱線事故（JR尼崎脱線事故） 第44回衆議院選挙で自民党率いる与党が326議席を獲得し大勝 「耐震強度偽装問題」	小泉劇場 mixi・電車男 受信料不払い マツケンサンバ
平成18年 2006	2/26 10/1		心肺蘇生法AHA2005導入 指導員研修会「安全潜水」KDレスキュー教本創刊のじぎく国体トライアスロン大会アクアサポート （KDのスィムレスキュー元年）	「ライブドアショック」・「ライブドア事件」 神戸国際空港が開港 電気用品安全法（PSE法）が施行 耐震強度偽装事件に関与した元建築士ら8人が逮捕 秋篠宮紀子さまが「悠仁（ひさひと）」さまをご出産。	ハンカチ王子 メタボリック症候群 イナバウアー デイトレーダー 亀田三兄弟
平成19年 2007			CMAS日本協議会会則制定 KDトレーニングセンター登録更新（5施設）	第1回東京マラソン 大リーグのオールスター戦でイチロー選手が日本人初のMVP 「新潟中越沖地震」新潟・長野で震度6強の地震が発生 「大阪世界陸上」世界陸上選手権が大阪で開催 郵政民営化がスタート	中国・模倣遊園地騒動 ナントカ還元水 そのまんま知事 サブプライムローン問題
平成20年 2008	2/24 5月		関西潜水連盟40周年記念総会開催（神戸） 名誉会長：村上忠一、名誉顧問：山本進・吉本幸男 指導認定基準改定（CMAS基準との整合性） Cカード協議会加盟	中国製ギョーザ食中毒問題 海上自衛隊のイージス艦「あたご」が民間の漁船と衝突事故 橋下徹弁護士が大府府知事に当選 リーマン・ブラザーズが経営破綻・金融危機が世界的に拡大 バラク・オバマ（民主党）第44代アメリカ合衆国大統領に当選	次世代DVD規格競争 タスポ 原油先物相場急騰 北京オリンピック 世界同時株安
平成21年 2009	8/30		第3回指導員研修会「潜水業務・事故と訴訟」 講師：麻生 利勝 弁護士 KD会員共済制度（救援者費用補填見直し） 第40回水中スポーツ大会（王子スポーツセンター）	銃刀法関連法案改正施行 Cカード協議会「セーフティ・ダイバー宣言」 民主圧勝、政権交代	政権交代 こども店長
平成22年 2010	3/7 11/14		村上名誉会長追悼会 KDマニュアル改訂作業準備開始 第12回安全潜水を考える会：演題発表	8/27神戸王子プールに不審物が投げ込まれ、KD水中スポーツ大会が中止となる CMAS日本協議会HP開設	げげげの女房 食べるラー油
平成23年 2011	4月		会員費値上げ KDマニュアル救急蘇生法の部分改訂 KD規則変更（慶弔内規） 「サンゴ保全活動参加・沖縄」CMAS日本協議会主催	東日本大震災発生 「できもぐイベント」に参加団体支援団体登録 「第一回マリンカップin沖縄」開催（10月） JSA機器基準策定委員会策定 「取扱説明書に良く出てくる語彙抜粋」	こだまでしょうか 絆 どや顔

平成24年 2012	3/3		第4回指導員研修会「安全潜水について」減圧理論他 (沖縄) 水中スポーツ大会終了	世界DAN会議 I DAN東京開催 (11/3)	iPS細胞 維新 ワイルドだろお
平成25年 2013			第一回OWS、第40回UWO同時開催(福井県) KD版ナイトロックスマニュアル原案完成 連盟規則改訂(理事定数)	デイリースポーツ紙にKDカレンダー記事掲載される  第20回全日本スポーツダイビング室内選手権大会参加	PM2.5 今でしょ お・も・て・な・し
平成26年 2014			CMAS New CARD に変更	バリ島ダイバー漂流事故	ダメよー〜ダメダメ 集団的自衛権 壁ドン
平成27年 2015			第5回指導員研修会「安全潜水への取り組み」 「ダイビングでの酸素の使用とナイトロックダイビング」 講師:野澤 徹 氏  高気圧作業安全衛生規則改正に関する講演会開催 (CMAS日本協議会共催) 新保険制度開始	高気圧作業安全衛生規則改正に関する講演会 主催:CMAS日本協議会(大阪)  AHA心肺蘇生ガイドライン2015アップデート 「スクーバダイビングの日」制定 (日付5月24日)日本記念日協会	トリプルスリー 爆買い 安心して下さい、穿いてますよ
平成28年 2016	4/9  9月		KD上級指導員セミナー開催(神戸)「指導員認定基準改訂」他  DRT Show EXPO参加	スキューバダイビングでの医療用酸素使用に係る通達(厚労省) 「水中ガイドの役割」の提言(Cカード協議会) 「体験ダイビングに関する提言」(Cカード協議会)	神ってる ガス不倫 保育園落ちた日本死ね PPAP
平成29年 2017	7/17  11/15  7/20		京都支部「海の日」海事関係功労者国土交通大臣表彰授与  兵庫支部アクアラング奉仕団 厚生労働大臣特別表彰授与 改訂KDダイビングマニュアル運用開始	DAN酸素供給法プログラム改訂  日本高気圧環境・潜水医学会(沖縄)CMAS日本協議会協賛	インスタ映え 付度 Jアラート
平成30年 2018	2/17		連盟創立50周年記念式典開催(京都) 講演:鍵井 靖章 氏  第6回指導員研修会開催 「改訂KDダイビングマニュアル解説」	退位により平成天皇最後の年	

# 関西潜水連盟加盟クラブ

## 京都支部

クラブ名	代表者		クラブ名	代表者	
京都ダイバーズ	野村 浩巳		ダイビングクラブまんぼう	永井 新也	
海の子ダイバーズ	竹本 茂		京都産業大学スキンダイビングクラブ	楠本 健太	
萬屋ダイビングクラブ	原 智久		小池道場	小池 俊介	
小川智工務店 潜水部	小川 智史		ダイキチ	岡 雄基	
若狭湾セルフダイビング愛好会	田倉 勉		越前セルフダイビング愛好会	川端 裕二	
大阪SDS	山本 晃		ブルーマリン東洋	中谷 淳一	
Mermaid	榊 繭子				

## 兵庫支部

クラブ名	代表者		クラブ名	代表者	
AQUATIC-PAL	神崎 康成		アクアラング日赤特殊奉仕団	鈴木 勇	
伊丹ダイビングクラブ (I. D. C)	松村 卓也		岡山ダイビングクラブ	荒井 康志	PRO
海遊人	増田 智		苦楽園クラブ	高崎 博幸	
神戸市消防局ダイビング部	塩谷 俊行		神戸スキューバークラブ	須佐美 宗	
CLUB SOUTHERN WIND	西園 英信		スキューバシャチクラブ	磯村 幸雄	
瀬戸内ダイビングクラブ	赤井 知恵		タジマダイビングクラブ	楯岡 智	
DIVE NOW	中村 俊一郎		Deeply Japan	川添 一夫	PRO
ドルフィン スピリッツ	熊 博毅		BLUE HOLE	平間 昭信	
福岡ダイビングセンター	川口 明		マーメイドダイビングクラブ	滝本 誠	PRO

## 舞鶴支部

クラブ名	代表者		クラブ名	代表者	
海鷗倶楽部	中村 佑美		Sun-/Shell/ Diver's Club	山崎 誠	
タカタダイバーズクラブ	上田 将臣		高浜マリソクラブ	上田 則夫	
福知山スクーバダイビングクラブ「サザンクロス」	木村 隆敏		舞鶴ダイビングスポーツ	大西 圭介	PRO

## 沖縄支部

クラブ名	代表者		クラブ名	代表者	
あかじま マリンサービス	中村 利一	PRO	伊江島Mariner (マリナー)	小松原 豪二	PRO
カワミチダイビングチーム	垣花 薫	PRO	久米島潜水	町田 宗良	PRO
ココスビレッジクラブ	古香 有		シーモンキーズ	安村 晃伸	PRO
SEEKSEA	笹瀬 元晶	PRO	瀬底ビーチマリソクラブ	与那嶺 建治	PRO
タイヨウマリン	比嘉 幸雄	PRO	ブルーボックス	指方 海斗	PRO
YYY CLUB iE RESORT	古田 隆士	PRO			

2018年1月現在※右欄 PROはプロショップを表します

## 最後に（編集後記）

2017年11月のとある日曜日、神戸にある会議室。

年に4回開かれる理事会は理事長を中心に楕円形のテーブルを囲むよう各支部からの代表が顔を合わす。来る50回記念総会に向けての調整作業がメインの課題だ。

広報委員長としての私の仕事は40周年記念にならない、記念WEBサイトを立ち上げることだった……はず！が、どこからか、誰からかの一言でサイトの作成だけではなく50周年記念誌を発行する事に。

（記念誌を作成するとなると入稿の期限だけではなく編集・校正・印刷業者との調整……時間が無い！寄稿集でもある本誌はもちろん来賓の方々始め関係各氏にも寄稿のお願いと催促をしなければならない、えらい事になった！）完全に油断していた私はこんなはずでは無かったと心の中で、いや、口に出して叫びながらも早速準備に取り掛かり、会長はじめ各理事の協力のもと、年末にかけ少しずつ原稿が集まり始め、順次編集作業を行い……。

2018年1月のとある土曜日、神戸にある会議室。

理事長を中心に楕円形のテーブルを囲むよう各支部からの代表が顔を合わせたところへ仮編集を終えたサンプルを提出する。

（行間が！文字サイズが！バランス悪いぞ！写真粗い！長い？読みにくっ！タイトルが無い！漢字が違う！早くしろ！間に合わないぞ！誰だ？まだ寄稿書いてない人は！弁当はまだか！味噌汁付けろよ！）等々と暖かい言葉とご支援を受けつつ、本日もでたく、なんとか、辛うじて期日どおりに入稿できる運びとなりました。

今回の記念誌発行においてご寄稿頂きました皆様には年末・年始の忙しい時にも関わらず快くお引受け頂き心から感謝申し上げます。

私が連盟に入会させて頂いて20年、本部の理事として10年弱関わらせて頂いておりますが、今回、広報委員長として編集しながら諸先輩方のご寄稿を拝見し、改めて50年という半世紀に及ぶ歴史の重みを深く感じ入っております。

連盟として50周年を迎えることができたのも、諸先輩方を始め関係機関、そして何よりも会員の皆様のご理解、ご協力あつての事だと痛感いたしました。

これからも60、70、……100年記念誌と発行されていくことかと思えます。連盟の活動共々どうぞご期待ください。最後までお読みくださり、ありがとうございました。

……なお、理事会は皆紳士で本文での模様はかなり盛った話であることをご了承ください。

平成30年2月1日 広報委員長 永井 新也